



## 私的な洞察から

### 生まれる新機軸

手前みそで恐縮ですが、年間約15000足を売る『カラビサソックス』と言う、変な形の靴下があります。意外と万人ウケしている沖縄発の不思議な靴下。どんなワガママ共感力があるのか？

この靴下の特徴は、5本指で指先が開いている点で、Habuboxが企画し、サンダルと合わせて提案しています。ファッション性を求める方も、健康志向の方も、そして日本特有のお土産を求める海外のお客さんも、実にさまざまなお客さんに好評です。企画しておいてなんですが、まさかこんなに売れるとは思いませんでした。もちろん、どんな企画でもヒットさせたい思いで作っていますが、いい意味で予想外でした。と言うのは、企画の発端が僕の、異常な足汗から着想した、超マイナーな動機だったためです。手のひらと足裏に異常に汗



しました。そして、5本指靴下の指先を切る事を思い付き、自前の指切り5本指靴下にサンダルを合わせていました。当時は、そういう形の靴下が、ほとんどどこにもなく、自分で切るしか方法がありませんでした。

特殊な僕の汗対策は、サンダルに合わせるとカワイイし、グリップは効くし上等！でもなんで売って無いのか？よし無いなら出番だ、いつか作ってやろう！と指なし靴下案を温めていました。頭の隅には、いくつもの変なアイデアが眠っています。でもそれが形になる事、ましてや、ビジネスになるのは極々まれな事ですが……。

をかく体質の僕は、自らの汗でかぶれるほどで、ノートが汗でへろへろになるのは、ギターは瞬時に錆びるはで、いいことなしです。靴を履くときは、汗による不快感と衛生面から靴下が必須です。ただ、サンダルに靴下を合わせるのがどうしても嫌で、汗対策と裸足の見た目の両立をいろいろと考えた末、指先が見えれば裸足っぽく見える事に着目

そういう素人の洞察から始まった企画ですが、生産できた。裏を返せば、だからそういう靴下が売ってなかった訳です。しかし、非常にラッキーな事にその希少な機械を扱うメーカーとご縁があり、2010年に商品化が実現しました。沖縄の言葉で、裸足を意味するカラビサを名前に、沖縄



島バナナ、ゴーヤー、もずく、赤瓦など、沖縄をテーマにした15色のバリエーションにS(22-25cm)とM(25.5-28cm)の2サイズをご用意しました。



天然系抗菌防臭加工糸ロンフレッシュを使用。綿糸を主に、適度な厚みで丈夫な作り。締付けを抑えたゴムの付け心地もおすすです。

僕たちはそのきっかけを作るのであって、その商品を完成させるのは、お客さんなんですから。

例えば、あるおばあちゃんが「これならフロリングでも足が滑ら無いから上等！」と言ってくれたり、「ヨガに使う」と言う女性、「夏場でもサンダル履きが冷える」(↓足首を温める)など、思わぬ用途でカラビサソックスが活躍し始めたのです。他にも観光のお客さんが「草履の鼻緒が擦れて痛い」からと買ってくれたり、さらに日焼け防止にと、友人を引き連れ再来店してくれたり。あれ？汗かきのお客さんに喜ばれたことは、ほとんど無い様な気が……。でも

いいんです。それがいいんです！これぞワガママの共感です。商品はお客さんのモノです。僕たちはそのきっかけを作るのであって、その商品を完成させるのは、お客さんなんですから。少数派の意見だからと言って諦めれば、こういったユニークなモノは生まれてこなかったでしょう。コンプレックスは、個性としてプラスに発展させる事もできるはず！そう、ワガママは共感してこそ豊かになるはず。カラビサソックスは、沖縄発のブロードデザインとして2014年グッドデザイン賞を受賞しました。数々の安価なパクリ品の出現にも負けず、国内有数のメーカーさんと、スタッフ、そしてお客さんに支えられてきました。

汗でベトベトの手で、みんなとがっちり握手したいです！

#### ◇ 筆者プロフィール ◇

名嘉 太一  
なか たいち



1975年生まれ沖縄県宜野湾出身。県立浦添工業デザイン科卒業後、プロジェクト・コアへ入社。ハブボックスの出店や商品企画に携わる。一時、同社を離れ、音楽活動、陶芸見習い、夫婦でのデザイン開発など多分野で多彩な能力を発揮。2008年からプロジェクト・コア：ハブボックスの新店舗AKARAのプランニング、ブランディングに携わり、2010年に同社へ復帰。復帰後は、商品開発プロデューサーとして『ほろゆし』『カラビサソックス』『レキオシアンかりゆし』などを手掛ける。2014年には『カラビサソックス』がグッドデザイン賞を受賞。現在、プロジェクト・コア専務とハブボックスアートディレクターを務める。